

JUST PLAY TO WIN!!



練習の開始直後にチームメイトとキャッチボールをし、肩を慣らしている由規選手



フリーバッティング練習



ガイエル選手

高田監督



石川選手



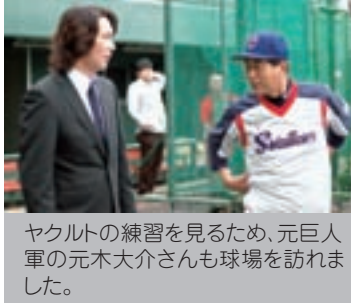
館山選手



今季から背番号が23番から1番に変わった青木選手



屋内運動場でのウォーミングアップをする選手たち



ヤクルトの練習を見るため、元巨人軍の元木大介さんも球場を訪れました。



2月1日から3月2日まで浦添市民球場でプロ野球チームの東京ヤクルトスワローズの春季キャンプが行われました。ヤクルトが浦添でキャンプを行うのは今年で11回目となります。

キャンプ中の練習を見学するため、多くの市内外の方が市民球場を訪れました。選手はファンの声援を受けて、ペナントレース優勝を目指し、練習に励んでいました。

歓迎式

キャンプイン当日の2月1日に市役所で選手たちを迎えて歓迎式が行われました。式で高田監督は「リーグ優勝目指してチームで頑張りたいと思います」と意気込みを語りました。式には多くの市民が参加し、選手たちを歓迎しました。



新人選手の市内観光



▲大きいアイスを目の前にパチリ（左から荒木選手、松井選手、中澤選手、山本選手）。



今回のキャンプが始まって初の休日となった2月5日、毎年恒例となっているヤクルト新人選手の市内観光が行われました。

今回は、中澤雅人選手、山本哲哉選手、荒木貴裕選手、松井淳選手が参加し、てだこレディらと市内各地を観光しました。キャンプキンザー、車えび養殖場、ブルーシールを見学し、選手たちは用意された車えびやアイスクリームを食べると口々に「美味し」と感想を述べていました。市内観光の後に向かったファミリーマート宮城1丁目店で、選手たちは一日店長を務め、買い物客を驚かせました。

選手による講話

2月10日に浦添中学校で行われた講話で、東京ヤクルトスワローズの石川雅規選手、館山昌平選手、空手道の金城さゆり選手が講師として招かれました。

この講話は、「DREAMS COME TRUE」夢はきっとかなう」と題され、選手の技の披露や経験談を通して、夢の実現に向けてのアドバイスやスポーツ・文化活動の関心を高めるために行われました。



▲「夢を叶えるのに必要なことは諦めずに続けることです」と語る石川選手

た講話では、「部活と勉強の両立の仕方」など、中学生ならではの質問が多く寄せられました。

少年野球教室

2月7日に開催された少年野球教室では、市内から16チーム、約160名が参加しました。この日はあいにくの雨で、当初より予定していた球場ではなく屋内運動場での開催となりましたが、憧れの選手から野球を学べるとあって、参加した児童は熱心に取り組んでいました。



参加者の感想



神森小 宮平泰伽さん

「プロが間近で教えてくれたので良かったです。今日習ったことをいかして、中学校に行ってもレギュラーを取りたいです」



浦添小 比嘉泰士さん

「知らなかったことをプロに教えてもらって良い勉強になりました」



「小学生はまだ手が小さいため、ボールのちゃんとした持ち方が出来ている人はなかなかいません」と館山選手は話し、ボールの持ち方から丁寧に教えていました。